

「通常の学級で活かす

特別教室での指導」



八王子市立片倉台小学校



- ・特別支援教室での効果的な指導
- ・児童を取り巻く環境の整備

学級で活かす特別支援教室での学び

研究に至る背景として、

- ・特別支援教室利用の児童が増加していること
 - ・それに伴って特別支援教室での指導時間が週1から2時間時間といった限られた指導時間になったこと
 - ・経験年数が浅い特別支援教室担当教員が増加していること
 - ・学校全体での合理的配慮の意識改革が必要なこと 等
- がある。そのため、令和5年度は研究のねらいを①特別支援教室での効果的な指導と②児童を取り巻く環境整備とした。これらのねらいを達成するために、特別支援教室での実践を通して、教員が共通理解しておくべき事項について抽出、整理した。より多くの教員の理解啓発を促すことを目的とし、本研究の成果を報告する。



八王子市立片倉台小学校

花と笑顔と活気にあふれた学校。

地域と連携し、協働して子どもを育みます。



研究主題を実現するための 理解啓発

■ 1. 特別支援教室 教職員

- ・障害特性について基礎知識
- ・児童の実態把握
- ・知能、心理、発達検査についての基礎知識
- ・行動観察の仕方
- ・チームアプローチの仕方
- ・共通で利用できる教材、教具、ワークシート等の紹介・共有



■ 2. 本校 全教職員

- ・新転任教職員を対象として特別支援教育研修（ワークショップ型）
 - ・全教職員を対象として特別支援教育研修（各学級でできる合理的配慮やUDについて通所の学級で活用できる教材の紹介等）
- ※UD…障害の有無にかかわらず全ての児童にとって分かりやすい学びやすい教育のデザイン

■ 3. 巡回校 教職員

- ・巡回校の教職員を対象として特別支援教育研修（ワークショップ型）
- （障害特性の理解、特別支援教室の指導の基本について、各学級でできる合理的配慮やUDについて、通常の学級で活用できる教材の紹介、連携型個別指導計画の作成と活用について等）



研究主題を実現するための 理解啓発

■ 4. 本校児童

- ・児童を対象とした啓発授業
- ・特別支援教室の指導の内容・方法の紹介
(廊下掲示・教室便り等)



■ 5. 保護者

- ・日々の連絡帳の活用とその内容
- ・保護者会
(卒業生の保護者のお話、進路相談等)
- ・授業参観
(授業体験、保護者間での交流等)

■ 6. 関係諸機関

- ・保護者、在籍校教職員、特別支援教室専門員、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、巡回相談心理士、スクールソーシャルワーカー、学童保育職員学校サポーター、ボランティア、保育園、幼稚園、中学校、特別支援学校、特別支援学級、医療機関、子ども家庭支援センター、児童相談所、教育相談等との連携及び情報共有



授業等の実践

【折り合いの付け方】

■単元のポイント

- ①お互いが少しずつ気持ちを譲り合うこと
- ②方法（じゃんけん・譲る・交代・順番・分ける・一緒に・くじ・多数決等）



■学習の取組と成果

なかよし教室オリジナルすごろく、ビンゴ、ドミノ、紙飛行機作り、サーキットコース作り、写真を撮ろう等を2人→3人→大人数で段階を経て、互いに折り合いながら調整して決める活動を行った。「～はどう？」「～にしてみない？」と一方的でなく、相手に聞きながらゆずり合うことを意識してさまざまな活動に参加できるようになってきた。

【不安や怒りへの上手な対処の仕方】

■単元のポイント

- ①手放せる「べき」を減らす

「べき」度診断			
名前()			
お題	そうすべき	まあ そうすべき	そうしなく てもよい
1 あいさつされたら あいさつすべき。			
2 忘れ物をしたら言うべき。			
3 がんばって勉強したら、どんな結果であろうと 褒めほめるべき。			



- ① 自分の気持ちに気付く
- ② 気持ちを落ち着かせる



- ③上手に対処する

自分にできることをやってみる	相手に自分の気持ちを伝える	先生や親に相談する	好きなことをして忘れる	だれにも言わずがまんする
----------------	---------------	-----------	-------------	--------------

■学習の取組と成果

不安や怒りの気持ちを感じやすい活動を意図的に設定し、「気持ちの温度計」を用いて活動を行った。気持ちを可視化することで、自分の状況に気付くことができるようになってきた。また、不安や怒りの温度計が上がり始めたところで、気持ちを落ち着かせ、上手に対処しようとして意識してさまざまな活動に参加できるようになってきた。

また、アンガーマネジメントの考え方を活かし、自分の考え方の傾向を知る「べき度診断」を行った。「そうすべき」という考え方が多いと、他の人がそうでないときに不安や怒りを感じやすいため、手放せる「べき」を減らし、必要な「べき」のみを持ち続けると良いということを確認することで、不安や怒りを表出する場面が減る様子が見られた。

【勝ち負けの受け入れ】

■単元のポイント

負けても、**お**こらない。

とびださない。

なかない。

勝っても、**よ**ろこびすぎない。

「おとなよ」「ま、いっか。」
「次は頑張ろう」で
取り組もうね。



困ったなあ。
もう一回、
遊ぶはずだったけど…

くやしい！
勝ちたかったのに！



■学習の取組と成果

学習後の実践演習として、カードゲームやお助けドッジボール等の勝ち負けのある活動を行った。

体育的活動や休み時間等で、勝ちにこだわってしまい、友だちとトラブルになることが多かった児童も、少しずつ自分の気持ちをコントロールして活動に取り組むことができるようになってきた。

【自分の感覚の気付きと表現】

■単元のポイント

①感覚（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）

は、人によって違う。

②相手が嫌いな感覚を、押し付けない。



なんかふわふわするな

ザラザラしてる
気がする。

この感覚は好きだな。



イヤーマフをかけると
嫌な音を軽減できるんだ！

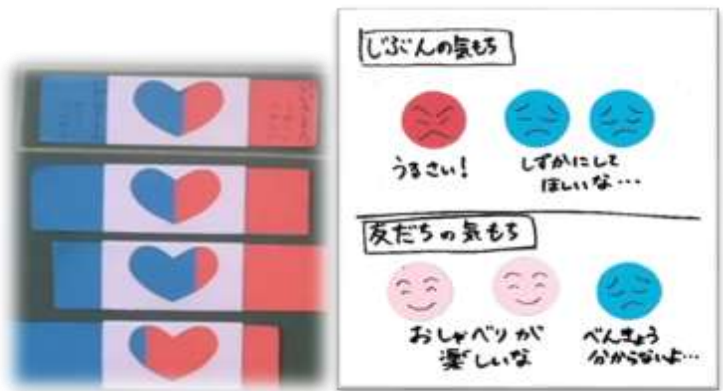
■学習の取組と成果

人にはさまざまな感覚があることを学び、箱の中の物を触ったり、さまざまな音を聞いたりして、それぞれの感覚の違いを伝え合った。自分の好きな触り心地や音等に気付くだけでなく、人によって感覚が違うことや苦手な感覚への対処の仕方を知り、自分なりの対処ができるようになってきた。

【自他の感情の理解と対応】

■単元のポイント

- ①言葉、表情、仕草、声音で気持ちを伝え、状況からも他者の気持ちを予想できる。
- ②人によって気持ちは違う。
- ③1つの出来事に対しても、いくつもの感情が表れる。



■学習の取組と成果

ハートメーターを使って、自分の気持ちの割合を表したり、表情チップの中から3枚を選びその時の気持ちを言葉で表したりした。同じテーマでも自他の気持ちが違うことに気付くことができた。

また、相手の気持ちも自分と同じくらい大切に考えて、場面に応じた上手な対応を考えることができるようになってきた。

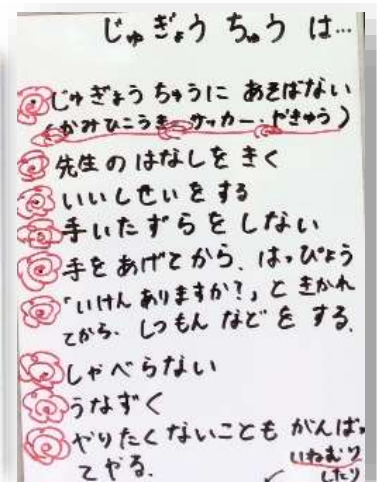


【ルールの理解と遵守】

■単元のポイント

- ①なかよく安全に過ごすためにルールを守る。
- ②始める前にルールの確認をする。
- ③マイルールを押しつけない。
- ④暗黙の了解にも気付いてルールを守る。

【じゅぎょうちゅう】



■学習の取組と成果

学校、家等の身近な場所や公共施設にはどんなルールがあるのか考えたり、移動教室・社会科見学で行く場所のルールを事前に考えたりした。普段は守れていなかったルールに気付き、意識的に守り、初めて行く場所でも学んだルールの意味を考え、安心して活動に参加することができた。

第5・6学年で実施する移動教室におけるルール



乗り物(バス)



宿の部屋



お風呂



店(買い物)



見学場所

研究成果と課題

成果

- ・児童が興味関心をもち、集団の中で積極的に他者と交流することができるようになった。
- ・啓発授業を実施することを通して、特別支援教室に通っていない児童にも、特別支援に関する理解を促すことができた。
- ・授業の基本的な指導を統一し、パッケージ化した小集団指導を行うことを通して、児童が安心して指導を受けることができた。
- ・初級→中級→発展に分かれた年間指導計画により、個に応じた指導を行い、児童が学習を積み上げることができた。
- ・基本的な授業の展開を統一することで、経験年数が浅い特別支援教室担当教員でも、安心して授業を実践し、児童への指導を行うことができた。
- ・特別支援教室で活用した教材を使用することで、通常の学級においても合理的配慮を基礎とし、統一した指導ができるようになった。
- ・関係者全員と円滑に連携を図ることができた。

課題

- ・特別支援教室を利用する児童の増加により、勤務時間内に学級担任をはじめとする他の教職員や保護者と指導の状況について情報共有したり、今後の指導目標等について共通理解したりする時間を確保することが難しくなっている。
- ・巡回校の教員に対して、特別支援教育における児童の特性に応じた個別の指導について、更なる理解啓発が必要である。
- ・よりよい指導や対応を行うためには、教室の環境整備を進めるとともに、継続的な特別支援教育への理解啓発が必要である。